

[Problem lists]

#1 咳嗽・呼吸困難・発熱・悪心

自宅で吸入ステロイド治療を行っていた 52 歳女性。2 日前に出現した黄色痰湿性咳嗽、呼吸困難悪化、発熱、悪心、嘔吐を主訴に来院。来院時 4L/min 酸素投与下で SatO₂ 91%。瀰漫性 crackles, rhonchi, wheezes を聴取。胸部レントゲン上は気管支周囲肥厚と肺野瀰漫性スリガラス状陰影を認めた。入院後造影 CT では 2 年前と比較し、瀰漫性実質病変の改善と斑状瀰漫性スリガラス状陰影と中隔肥厚の残存を認めた。

#2 非定型性肺炎

患者は 20 年来の繰り返す非定型性肺炎の既往を持ち、COPD 併発性肺炎と診断され、吸入ステロイド及び抗生剤の治療を継続されてきた。病状の推移を以下に示す。

- * 9 年前: CXR 上両側性中下肺野優位のスリガラス陰影・含気腔の硬化・心拡大を認めたが、抗生剤治療にて軽快した。
- * 7 年前: CXR 上瀰漫性スリガラス様陰影と斑状硬化像と融合傾向の進んだ一連の硬化像、及び心拡大を認め、BAL で気管支上皮細胞、好中球、リンパ球が、経気管支的生検では色素含有肺胞組織球が見られた。肺臓炎、アレルギー性肺疾患、感染性疾患 (Influenza, RSV、真菌、TB など)、膠原病関連肺障害、Wegener 肉芽腫、Goodpasture 症候群、悪性腫瘍は否定的であった。多剤抗生剤と吸入ステロイドにて軽快した。
- * 2 年前: 酸素投与を要する呼吸困難を呈した。CXR 及び胸部 CT にて上葉を含まない瀰漫性硬化像の進行、心拡大、肺小葉間中隔肥厚を伴うモザイク状両肺すりガラス状陰影を認めた。BAL は好中球、リンパ球を認めた。悪性腫瘍、細菌感染は否定的。ステロイドにて軽快した。

#3 長期喫煙歴

患者は 35 年の喫煙歴を持つ heavy smoker であるが、入院中も喫煙をしばし認めた。

#4 LDH 上昇

9 年前の当院初回受診時より LDH 上昇 (422u/l) を認めており、入院時血清 LDH 上昇を認めた。

#5 統合失調性感情障害

20 年来の統合失調性感情障害の患者で、数度の自殺企図の既往があり、鬱エピソードも随伴した。8 年前 ECT を施行され、現在は内服治療でコントロールされ、グループホームに在住している。